



総合教育センターだより

平成21年9月16日(水)
第6号(通算第89号)
京都府総合教育センター
Tel 075-612-3266

Be Connected



出前講座が大好評!

すでに181講座 (8月31日現在)

本年度も、多くの学校等から「出前講座」の申込みがあり、すでに実施済み分も含めて現在181件を受付けています。出前講座は、「教職員が学校を離れることなく、全員が自校の課題やニーズに応じた内容で、しかも意見や質問を活発にやりとりできる」という利点があります。今後是非ご活用下さい。

※詳細については、「研修講座の概要」(P4、P13、P125~131)をご覧ください。

[実施状況]

- 出前講座は、夏季校内研修会で多く活用され、夏季休業中に約100件の講座を実施しました。
- 小学校では「教科教育講座」、とりわけ国語科が、また全校種通じて「特別支援教育」や「教育相談」に非常に関心が高い状況です。
- 各研究会からも、専門的知識や実践的指導力を身につける研修会にするために、出前講座が活用されています。



[受講者の感想]



- ◆ 授業に影響されることなく、放課後に自校で受講でき、校内研修を深める絶好の機会となった。
- ◆ 学校の状況や生徒の現状にもふれ、自校の課題に即した内容を受講することができた。
- ◆ 出前講座は、講義形式とは違い、少人数で活発なやりとりができ、専門性を深められた。
- ◆ 各教科を通じての言語活動の充実を図るための取組について考え、相互に交流することができた。
- ◆ 自校の特別支援教育や教育相談の取組がどこまで進んでいるか、何が必要かを振り返ることができ、今後も積極的に出前講座を活用していきたい。
- ◆ 小学校外国語活動では、目標の理解だけでなく、実際の指導場面を体験でき、安心できた。
- ◆ ICT機器活用を推進させるには、校内研修が重要であり、今後も積極的に出前講座を活用したい。

お知らせ

「確かな学力」を高める分析力向上講座

〈10月9日(北部)、10月16日(センター)〉

★センターが開発した**全国初の**「全国学力・学習状況調査分析ツール」の活用方法について説明します。申込期限は過ぎていますが、これからでも受け付けますのでお申込み下さい。



11月
12月
講座紹介
<締め切り>
●市町(組合)
立学校は
10/2迄
●府立学校は
10/9迄

チームマネジメント「組織の活性化・チームづくり」演習講座(企業等)

(11月5日実施) ※ 企業の経営哲学や環境への対応について、経営トップの話(VTR視聴)を通し、組織の活性化や人材育成の在り方等について学びます。講師はPHP研究所の山本良紀氏です。

「見ること」の障害や困難の理解と支援講座(11月26日実施)

※ 視覚障害及び視覚的な認知の困難による読み書き障害などのLD等、「見ること」の障害や困難についての理解を深め、適切な支援の在り方について学びます。校種を問わず、携わっている教員には必須の内容です。



信頼ある学校を創るために③

児童生徒・保護者と接する中で、教職員自身に様々な感情が生じることがあります。自らの感情を見つめ、振り返ることが指導や援助の大きなヒントになることがあります。

例えば「不登校の児童生徒の家庭訪問をするが、何度たずねても本人に会えない」という事例について考えてみましょう。



教職員の援助が児童生徒のためになっているという実感を得ることもありますが、次のような感情が生まれてくることはありませんか。



- ◆「こんなに足を運んでいるのに」と、手応え感が得られず、援助意欲が低下し、足が遠のいてしまう。
- ◆「教師という役割」に向けられた、児童生徒や保護者の否定的な言動を「自分自身」に向けられた言動と受け取り、苦手意識や無力感を感じてしまう。
- ◆「以前の指導ではうまくいったのに」と思い、相手の変化への期待が、変化しない相手への苛立ちに変わってしまう。



まずは、指導や援助の際、自分自身にどのような感情が生まれているのか、「気づいておくこと」が大切です。
気づいたら、まずは一人で抱え込まないことです。



- ◆校内組織としてのチームによる**複数の目・客観的な目**で児童生徒・保護者の状態を見立て、状況に応じて指導や援助の**見直しを柔軟**に行う。
- ◆保護者や児童生徒に**関わり続ける**。



会えない児童・生徒に関わり続けるためには、次のような対応例が考えられます。



- ◆会えなくても「**関係をつくる**」ことを考える。「気にかけているんだよ」ということが伝わるよう、**長く続けられるペース**で関わる。
- ◆会えなくても保護者と会うことで、児童生徒は見捨てられない**安心感**を得ることができる。
- ◆管理職と相談し、センターをはじめ、外部の**専門機関との連携**を図る。

学校が負うべき責任を果たし、教職員が適切に対応することが、「信頼ある学校を創る」ことにつながります。そのためには教職員一人一人の心構えが大切となります。

～センターからの一言～

日々、情熱を傾け 日々、愛情を注ぎ
日々、英知を磨き 日々、人格を高める
だからこそ教師としての光彩が放たれるのである。
子どもは、教師を映し出す鏡とされています。



～お知らせ～

センターHP (ITEC) に「Enjoy Japanese Sign Language」第3弾を掲載しました。
これはセンターが開発した「英語で日本語の手話を学ぶコンテンツ」です。全国の聾学校等で教えるAETや、日本語の手話を学びたい人だけに限らず、広くご活用下さい。